

シラバス詳細

タイトル「2025年度シラバス」、カテゴリ「(共通)」

科目情報

< 3 / 23件 >

科目名

日本語Ⅱ

講義名

日本語Ⅱ A

クラス

A

担当教員

井本 亮(e060@ipc.fukushima-u.ac.jp)

実務経験のある教員による講義

学年

1年、2年、3年、4年

キャンパス区分

金谷川キャンパス

開講学期

後期

開講時期

(後期)

曜日・時限

火2

講義室

講義室未設定

科目種別

通常講義(学類)

ナンバリング

g25k0020

科目区分

日本語

単位区分

選必自由

単位数

1

準備事項

備考

特修プログラム

直接参照URL

https://livecampus.adb.fukushima-u.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_22/referenceDirect?subjectID=047440159704&formatCD=1

教育目標との関係(DPポイント配分)

基盤教育	基盤教育	最新の専門知識及び技術	30	%
		本質を見極めるための教養と学際性	30	%
		協働的な問題探究	30	%

社会の改善につなげる創造性	0	%
市民としての主体的態度	10	%

授業方法

講義、演習、グループワーク、発表、ディスカッション、ICT機器の活用

講義情報

授業概要とねらい

【概要】

この授業では、大学留学生の日本語リテラシーとして求められる「読んでまとめる」力を伸ばすための文章読解トレーニング、構成のある文章や効果的なスライドを用いて相手に自分のアイデアや意見を伝える作文・口頭表現トレーニングを中心とした総合演習を行う。

【ねらい】

文章を読んで正しく理解するとともに、その理解を自分の表現として平易に言い換え、発信する力を伸ばす。内容を短いメモにまとめて表現する、論旨を一文でまとめ、口頭で報告するなど、スピーキング・オーラルプレゼンテーションの練習も行う。

【カリキュラムにおける当該科目の位置付け】

- ・外国語リテラシー（幅広い教養3-①）
- ・学問的思考の基礎（幅広い教養2）
- ・多角的・総合的思考（幅広い教養1）
- ・自己形成力/自己学習力（自己形成力1）

単位認定基準

- (1)論説文・コラムなどについて、その内容を理解し、平易な言い換えや内容整理ができ、簡潔な要約文を書くことができる。
- (2)内容語・機能語の適切な用法を理解し、正確な単文の作文・報告ができる。
- (3)授業への出席、宿題提出、発話練習、発言や自己学習などを通して主体的に授業に参加していると判断できる。

授業計画

- 第1回) イントロダクション：読解要約・プレゼンテーション演習
- 第2回) 新聞記事漢字全部読み
- 第3回) プレゼンテーション演習①スライドとオーラルプレゼンテーション：インプットレクチャー
- 第4回) プレゼンテーション演習②スライド作成・効果的な構成・配置・出典
- 第5回) プレゼンテーション演習③発表とピアレビュー：評価する・助言する
- 第6回) 文を正確に理解する読解トレーニング①する/されるをつかむ
- 第7回) 文を正確に理解する読解トレーニング②文の構造と前後の関係をとらえる
- 第8回) 文の連続を理解するトレーニング①指示表現を考える

- 第9回)文の連続を理解するトレーニング②省略と関連性を考える
第10回) 文の展開を理解するトレーニング
第11回) 待遇表現①敬語の原理：インプットレクチャーと問題演習
第12回) 待遇表現②尊敬語系の形式と用法：問題演習
第13回) 待遇表現③謙譲語系の形式と用法：問題演習
第14回) 待遇表現④コミュニケーション・ストラテジーとしての待遇表現：問題演習
第15回) 全体のまとめとして、習熟度を確認するまとめを行う。

※上記授業計画は受講生の日本語能力・到達度・理解度を重視し、補助的・派生的・発展的な内容を追加的に導入することがある。そのため、授業の進捗に変更が生じる場合がある。

授業計画（週形式）

教材・教科書

必要に応じてプリント資料を配布する。つねに日本語辞書を持参すること（電子辞書でもよい。ただし、スマートフォン・携帯電話・iPadなどタブレット端末の使用は教員の指示に従うこと）。

※課題提出や授業連絡にGoogle Classroomを使用するので、受講までにIPCアドレスで登録準備をしておくこと。クラス参加登録の準備ができ次第、Live Campusから履修登録者に周知する。

※LINEオープンチャットを用いてクラス内での情報共有や協働学習を行うことがある。LINEアプリが使えるスマートフォン等を持参すること。

参考図書

『教師と学習者のための日本語文型辞典 / グループ・ジャマシイ編著』 『同・ベトナム語版』 『同・韓韓国語版』 『同・英語版』

参考URL

<https://www.lib.fukushima-u.ac.jp/opac/rmbook/?>

lang=0&rmtype=1&reqCode=list&dptidpl=1&rmkey=51&rminf=%E4%BA%95%E6%9C%AC%20%E4%BA%AE&rmnm=&co
deno=7

授業外の学修、及び必要な学修時間

毎週、各課の宿題や語彙に関する課題などを課す。課題の提出を前提にした反転授業が基本的な授業スタイルになるため、そのための準備として各回1コマ程度の学習が必要である。

(単位制に基づき、少なくとも15時間の授業外学修時間を必要とする)

成績評価の方法

宿題&課題提出・期末平常試験・予習を含めた授業への主体的参加を評価する平常点の総合評価によって以下の目安にしたがって成績評価を行う。

成績評価の基準

- S：単位認定基準を満たし、かつ全ての項目で優秀な学修成果をあげた（90～100点）
- A：単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学修成果をあげた（80～89点）
- B：単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学修成果をあげた（70～79点）
- C：単位認定基準を満たす最低限の学修成果をあげた（60～69点）
- F：単位認定基準の学修成果をあげられなかった（～59点）

オフィスアワー

金曜日10:30～12:00。その他の曜日時間帯も応相談。まず、アポイントをとること。

授業改善・工夫

オンラインサービスを活用し、資料配布・授業連絡・情報共有・課題提出・ディスカッション・成果物のアーカイブなど、能動的活動のための環境を整備する。

留意点・注意事項

この科目は【学類留学生・研究生対象科目】である。

この科目には火曜日のAクラスと木曜日のBクラスがある。

この科目の履修には3つのパターンがある：①AとBの両方、②Aクラスだけ、③Bクラスだけ、である。

この後で日本語Ⅲ（A/B）を履修するためには、この授業の3パターンのどれかひとつで履修しておかなければならない。

卒業に必要な単位を日本語で習得することを考えている人は①AとBの両方がよい。

教員の実務経験の有無